

## 第4回地域のまち・絆づくり検討委員会

1. 開催日時 平成26年12月5日(金) 13:30~16:00
2. 開催場所 福岡市交通局4階 大会議室
3. 出席委員 【出席委員15名】  
青木委員、石川委員、石森委員長、大島委員、日下部委員、角委員、  
田代(倫)委員、田代(芳)委員、十時委員、中橋委員、長柄委員、  
平山副委員長、西頭委員、山口委員、結城委員
4. 傍聴者 なし
5. 講演 「まちづくり計画の概要と社会的意味」について  
(講師: 福山市立大学都市経営学部 前山 総一郎 教授)
6. 議題 (1)これまでのまとめ  
(2)地域の絆づくりについて(説明・ワークショップ)
7. 議事概要

講演「まちづくり計画の概要と社会的意味」について(福山市立大学 前山教授)

【事務局】 ご質問、ご意見等ありますか。

【委員】 まちづくり計画の中には、人権尊重の視点や男女共同参画の視点は入ってくるのか。

【前山教授】 地域によって入れるところと入れないところがある。問題意識が強い地域では当然入っている。

【委員】 福岡市のコミュニティは成熟していると先生は言われたが、どのような点でそう思われたのか。それと、まちづくり計画をつくっている都市において、財源的なものはどうなっているのか。

【前山教授】 成熟していると申し上げたのは、地域における人材が育っていると思われたから。自治協議会制度が出来て10年、委員の皆様のような地域リーダーの方々が自治協議会を引っ張ってきたのではないかと思うが、これだけ活動が活発なのは、そのようなリーダーがたくさんいて、かつ、そのような人材がさらに育っているのではないかと思う。

二つ目の「財源」について、福山市の場合はまちづくり計画策定にあたって30万円の補助を行っている。福岡市の場合は、既に補助金について進んだ制度があり、そこを含めてどうするかということになるが、皆さんで議論することが大事なかもしれない。

【委員】 福山市では、地域でつくったまちづくり計画が行政計画にリンクしているというお話だが。

【前山教授】 行政計画の一部となることで、自分たちがつくった計画が絵に描いた餅にならないということ。以前私が携わった階上町の方では、活動計画を三つに仕分けして、行政がやるところ、行政と住民と一緒にやるところ、住民がやるところをそれぞれ年度ごとにつくったが、区分ごとに進捗

管理が出来ればより良いと思う。

【委員】 今、仕分けの話が出たが、どの段階でどういう形でされているのかということと、地域によってそれぞれ考えが違うということはないか。

【前山教授】 実際、計画をつくるときに、住民だけでつくることはほとんど不可能。行政の地域担当職員と一緒に作っていきのところが多い。計画を皆さんで議論しているときに、行政からの確かな情報や助言をいただきながらつくっていくため、仕分けも早い段階で行政からアドバイスを受けながら進めていく。また、地域や地方によって課題が様々であり、住民も様々ですので、まちづくり計画は地域ごとに非常に個性豊かな形になっていく。

【委員】 自治基本条例をつくられたということだが、効果はどうだったか。

【前山教授】 まちづくり計画への取り組みが進んだり、行政側で担当職員制度が出来たり、住民が主体的に地域に参加したりなど、地域に関連するところで様々な波及効果があったように感じられる。

#### 「これまでのまとめ（資料2，資料3）」事務局より説明

【委員】 検討委員会におけるこれまでの意見のまとめということだが、「地域活動の担い手不足」や「地域の負担感」というのは、検討委員会以前より「コミュニティ施策推進委員会」などにおいても議論があった内容であり、今回の検討委員会ではそれに加え「超高齢社会」や「絆づくり」といった言葉が出てきたものと思っている。

行政としては、この「絆づくり」を地域が主体的に行っていくことが重要だと考えているということでもよろしいのでしょうか？

もう1点は、その場合、この絆づくりというのは、地域福祉計画とも連動するのか。

【事務局】 昨年度、市の内部で検討した事項として、地域が超高齢社会に対応していくため、補助金の見直し等について地域へご提案いたしました。結果的には、地域の皆様方から「大事だということとは分かっているがそういう形での進め方は難しいのではないか」といったご意見をいただき、もう少し時間をかけて幅広い意見をいただきながら、その背景も含めて議論を行う必要があるということで、そして発足したのがこの「地域のまち・絆づくり検討委員会」でございます。

超高齢社会への対応という観点から、私どもとしては、やはり行政からの支援も必要とは思いますが、その基礎固めとして、まずは住民同士が顔の見える関係をつくっていくなど「絆」を深めていくことが重要であり、そのための仕組みづくり等について皆様からご意見をいただきたく思っております。

それから地域福祉計画と連動するのかというご質問ですが、今の段階ではこれが直接リンクするものとは考えておりません。ここで出されたご意見等で、地域が実際に動けるような体制になる、仕組みができるということがこちらの地域のまち・絆づくり検討委員会で目指していく部分だと思っております。その結果として、具体的な動きというものに福祉的な部分が出てくると思っているところではございます。

「地域の絆づくりについて（資料4）」事務局より説明

【委員】 地域では、防災、防犯、交通安全のパトロールなど、様々な活動を積極的に行っている。特に近年は皆よくがんばっている。そして、学校との関係や高齢者の問題、孤独死の問題なども含めて細かいところに配慮しながら地域は取り組んでいかなければならない。そういう意味では、地域の役割はいろいろな面で大変な状況になっている。

一方で、現在は、世帯主の名簿も中途半端なものしかない。行政はもっと共働という意味を考え、地域の協力が本当に必要であるならば、もっとインセンティブとか、条例とか、地域の団体をどう見るのか、そういったことについて強く方向性を打ち出していけば、地域の人材不足というものも少しは解決していくのではないかと思っている。

今、福岡市のコミュニティはうまくいっているという話があった。しかし、そういったことも考えていかないと、今後厳しくなっていくと思う。

「班ごとにワークショップ（地域の絆づくりについて）」

～各班より発表～

（1班）

【委員】 これまで、地域では大概のことはやりつくしており、どんな案を出しても煮詰まっているということがあるが、ひとつあるのは「企業の協力」だと考えている。もちろん、企業は地域住民とは違って、少し違うエネルギーを持たないとやれないと思うが、いろんなやり方があると思う。

今は共働きの世代が多すぎる。その方々を巻き込まないとこれ以上は進めない。企業や大学とか、そういうところと一緒に力をもろうということ。

そのためには、担い手をはっきりしなければならない。自治基本条例の最初には、よく主体の責任と役割が書いているが、その時に「企業」を入れることが重要ではないか。そう考えると、これは条例をつくらないと無理かもしれない。フォローお願いします。

【委員】 企業人と言うか、実は、この皆さんの中で、本当は地域活動やりたいけれどもできないという人はいっぱいいると思う。地域にいる30、40代の人の中にも、町内会長やってもいいと思っているけれども、実際に仕事をやりながらというのは、おそらく、今の企業の実態では無理。

だから、町内活動を企業の活動として認める、そのかわり、町内に行ったらいろいろな人の話を聞いて、商売に役立つことにもつながるような取り組み環境をつくってやると、人材もどんどん増えてくると思う。そういう努力が必要だと思う。

【委員】 補足だが、二十何歳の町内会長が出て、地域活動で何で町内会長をできているかと言うと、彼はウェブの仕事をしているのだが、町内会長をしたらウェブの仕事がものすごく増えたと言っていた。昔、酒屋さんが町内会で動いていたのは、そういうこと。

（2班）

【委員】 一番は「気づき」だと思う。一人一人に気づいてもらう、地域にも気づいてもらう。行政はある程度気づいているつもりなのでしょうが、気づく。そして、いろんな地域の強みとか、弱みを

踏まえた、いろいろな魅力づくりも必要。

みんなそれぞれ能力を持っているから、その能力を還元する方法を考えたいが、まず、行政職員に地域活動に参加してほしい。自治協議会の方々から言われて、いろんなところでまず体験するというお話があった。行事にいろいろ呼び込むとか、校区の行事に対しては定期的に見直していくとか、もちろん、そういうことはベースとして必要でしょう。

(3班)

**【委員】** 私たちの班は、一番に「情報」が大事ということになった。情報を共有するのが絆づくりならば、情報をどのように得るかということも問題。それから、地域包括ケアシステムを生かして取り組みを進めていこうとするときに、コミュニティと言うけれども、このコミュニティの規模についてもう少し絞って、身近にできることからやるという規模のあり方もある。

それから、地域の情報について、防災であろうが、見守りであろうが、高齢者であろうが、共通点はあるんじゃないかなと思っています。また、地域と言われるときに、地域の核になる公民館と地域の連携がとにかくうまく機能するようにすることによって、もっといろいろな意味で地域の情報が活かされていくのではないかな。

それから、ワンルームマンションとか、いろんな住宅事情の課題もたくさんありますが、団体との連携など、そういうところで何をやるにも「情報」が一番重要になってくると思っている。

～発表終了後～

**【事務局】** ありがとうございます。短い時間の中でたくさん意見をいただきました。「将来のイメージ」については今後の宿題ということで、またこういうワークショップなどの手法も含めて、事務局でもいろいろ考えていきたいと思っております。各班の発表に関して、なにかご意見ありませんか。

**【委員】** つつみカフェについて一言だけつけ加えさせていただきたいと思う。このつつみカフェは、今までの事業と違っている。何が違っているかと言うと、何か事業をするときに、普通は動員をかけたがら参加してもらうが、そうすると出てくる人はほとんど同じような人になるという課題があった。

しかしながら、このカフェは全く自由参加となっている。それでも1回に100人ぐらいは出ていただいている。

ボランティアの方々に対する業務分担でも、普通は「あなたは〇〇」ですと割り振りしながら事業をするが、このボランティアに対しては全く要請していない。誰が来られるかも全くわからない。

「私は今日、午前中しかあいていませんので、お昼からは失礼します」あるいは、「午前中はできなかったけれども、午後があいたから来ました」という形でしてもらっている。

もう1点は、この事業には、地域の事業所にも参加してもらっている。そして、専門的な立場に立たれて、相談コーナーは私のほうで受け付けますよといった形で、地域上げての事業として出来上がっている。そういう意味で、大きな変化を見た、事業に対する見方が大きく変わりました。

これからは、こういう事業こそが住民参加型の事業になってくるんじゃないかなと思っている。

**【事務局】** それでは、このワークショップ形式で皆さん方のご意見をいただく分につきましては、これで終わらせていただきたいと思います。

本日、資料の中に、4年に一度実施しております自治協議会と自治会のアンケート調査の速報値を

入れております。参考という形で見ていただければと思います。よろしく願いいたします。

今回、新しくワークショップという形式をとらせていただきましたけれども、ありがとうございます。次回は、このまとめのほうに少し入っていきたいと思っております。

— 了 —